



東京都医療ソーシャルワーカー協会

成育医療等を考える小委員会 秋の勉強会

医療ソーシャルワーク70号を読んで頂けましたか??

当小委員会は2015年に発足し、「成育医療等基本法」について学び、また成育医療全般においての問題点や課題等を共有し、情報発信をしてきました。

皆さんと一緒にこういった問題点や課題等を考える機会として、今回、勉強会を開催することにしました!!興味関心はあるけど、成育医療の分野で働いていないから…という方も心配ありません。小委員会のメンバーも成育医療とは異なる分野で働いている方が何人もいます。

まずは、小委員会のメンバーから語られる事例を通して、成育医療の現場で起こっている問題点や課題等、一緒に学んでみませんか?

日時 2022年11月29日(火) 19:00~20:30

開催方法 オンライン(ZOOM)

参加申込み 都協会ホームページ研修情報コーナーの研修一覧からご入力ください
下記QRコードより申し込みが出来ます

お問い合わせ TEL:03-5944-8912 東京都医療ソーシャルワーカー協会 事務局

小委員会のメンバーから語られた事例の一部を紹介します。

父親に連れられて受診した低学年の男の子、発熱があり肺炎が疑われた。体調のせいか反応も乏しく、不安を和らげるスタッフの声かけのもと検査が行われた。着替えを手伝っていた際、背中に不思議な形のアザを複数みつけ、本人に聞くと「なァに?わからない」と応える。自分の背中なんて見えないもんねーと和ませながら、記録として写真に納めさせてもらった。背中には直線と湾曲線のなんとも奇妙な傷が見られ「新旧混在の外傷が複数あり」と医師によってカルテに記された。

父親へ背中への傷について問うと「ハンガーで背中を殴った」「これはしつけである」と話があった。その場では突き詰めず、本人の安全確保を第一に考え「肺炎の治療」として入院となった。

CPT(院内虐待対応チーム)で協議し、身体的虐待があったとして対応することになった。児童相談所と連携をし、以前より懸念される親子関係の歪みがあったことがわかってきた。

本人との面接を重ねるうちに日常的に暴力を受けていることがわかってきた。本人からは、父と母が大好きであること、期待に応えられない自分が悪いと思っていること、そして暴力を愛情だと受け取っていることが語られた。

・・・続きは勉強会で・・・

※小委員会メンバーは随時募集中です!!

